

今、もっとも人気のヨーロッパの超名門とカリスマ指揮者の組み合わせ!

マリス・ヤンソンス 指揮 ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団



ベートーヴェン：序曲「レオノーレ」第3番 op.72b
ヤナーチェク：狂詩曲「タラス・ブーリバ」
チャイコフスキー：交響曲第4番 へ短調 op.36

Mariss Jansons, Chief Conductor



Royal Concertgebouw Orchestra

2010 **11/17** (水) PM6:45開演 **愛知県芸術劇場コンサートホール** 5/29(土) AM10:00~発売開始!
主催：中京テレビ放送 企画・運営：中京テレビ事業 S¥24,000 A¥19,000 B¥14,000 C¥9,000 学生¥3,000(税込)

お問合せお申込み **中京テレビ事業 ☎052-957-3333**
〒460-8613 名古屋市中区錦3-15-15 CTV錦ビル6F(月~金 AM9:30~PM5:30/土・日・祝日休業)

★WEBでも受付!★
中京テレビ事業

チケットぴあ (Pコード:102-861) 0570-02-9999
愛知芸術文化センターPG 052-972-0430
ローソンチケット (Lコード:40723) 0570-084-004
イープラス eplus.jp
栄プレチケ92(旧三越PG)、中目SC、他 有名プレイガイド

ご希望の方は往復ハガキに、希望公演名、公演日時、住所、氏名、年齢、電話番号、学校名、学籍番号を明記の上、中京テレビ事業「学生券」係までお申込み下さい。公演の3週間前に抽選の上、お席をお取りできるか否かご連絡致します。往復ハガキ1枚につき、1公演1名様でお願い致します。
http://cte.jp
※未就学児童のご入場はご同伴の場合でもお断り致します。 ※プログラム内容等変更になる場合がございます。予めご了承下さい。

これほど“贅沢”で“エキサイティング”なオーケストラ公演は滅多にない。

“贅沢”は、世界のトップ3をウィーン&ベルリン・フィル両雄と争い、英グラモフォン誌のランキングでは1位にもランクされた、ヤンソンス率いるロイヤル・コンサートヘボウ管のライブを聴けること。深くまろやかな伝統のサウンドと、緻密かつ生命力溢れるヤンソンスの棒が一体化した、芳醇なるオーケストラ音楽に酔うのは、むろん至福の贅沢だ。

“エキサイティング”なのは演目。名門の底力が発揮されるベートーヴェンは元より、チャイコフスキーの交響曲は、幾多の名演を聴かせてきたヤンソンスの真骨頂。中でも華麗な第4番ならば、コンサートヘボウ管の艶やかさと相まって、めくるめく音楽体験が約束されている。

そしてとりわけ注目されるのが、村上春樹の小説で話題を呼んだチェコの作曲家ヤナーチェクの「タラス・ブーリバ」だ。実在のコサック隊長タラス・ブーリバの物語に感動したヤナーチェク入魂の一作。選ばれた3つのシーンそれぞれに、多彩な管弦楽法を駆使した変化著しいドラマが展開され、最後は、金管、ティンパニ、オルガンを中心とした壮麗なサウンドが鳴り響く。日本での生演奏は稀な同曲を、最高峰のコンビで味わう……これは生涯唯一のチャンスと言っても過言ではない。

音楽評論：柴田 克彦

マリス・ヤンソンス(首席指揮者)

Mariss Jansons, Chief Conductor

1943年ラトヴィアのリガ生まれ。父は名指揮者アルヴィド・ヤンソンス。レニングラード音楽院でヴァイオリン、ピアノ、指揮法を学び、さらにウィーンでスワロフスキーに、ザルツブルクでカラヤンに師事。1971年カラヤン・コンクール入賞。1973年レニングラード・フィル(現サンクトペテルブルク・フィル)の音楽監督ムラヴィンスキーからアシスタントとして招かれ、以後長年にわたり同団を指揮。

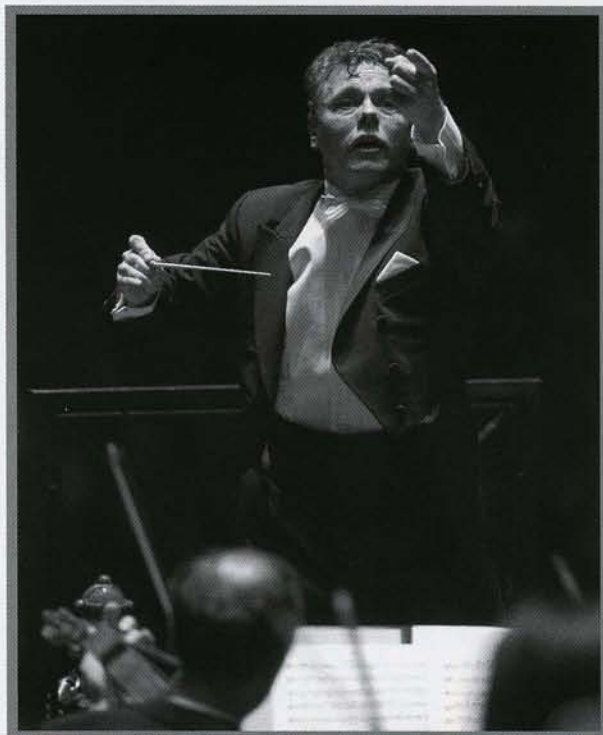
1979年から2000年まで20年以上にわたりオスロ・フィルの音楽監督を務めて同団を国際的なレベルに引き上げ、1997年からはピッツバーグ響の音楽監督としても手腕を発揮した。

2004年9月からロイヤル・コンサートヘボウ管の首席指揮者に就任。また2003年にはバイエルン放送響の音楽監督にも就任。

世界の超一流オーケストラから客演に招かれ、ザルツブルク音楽祭には毎年違うオーケストラと来演している。

レコーディングはEMI、シャンドス、シマックスから膨大な数をリリース。オスロ・フィルとの数々の名盤に加え、ベルリン・フィル、ウィーン・フィル、ロイヤル・コンサートヘボウ管、レニングラード・フィルなども録音している。

1995年ノルウェー王国功労星章を受章。アンダース・ヤーレ・ノルウェー文化勲章も授与。サンクトペテルブルク音楽院教授。



(c) Simon van Boxtel

ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団

Royal Concertgebouw Orchestra

1888年創立。初期の首席指揮者、ケスとメンゲルベルクのもと、たちまちヨーロッパ有数のアンサンブルに成長を遂げ、その後もヴァン・ベイヌム、ハイティンクの指導に加え、多彩な客演指揮者たちの手によって、柔軟性に富む最高級のオーケストラに磨き上げられた。

1988年には創設100周年を記念して女王から「王立」の称号を授与された。2004年9月にマリス・ヤンソンスが首席指揮者に就任。その就任コンサートは近年稀にみる絶賛を得て大成功を果たした。

創立当初から同年代の作曲家たちと密接に関わり、R.シュトラウス、マーラー、ラヴェル、ドビュッシー、ストラヴィンスキー、シェーンベルク、ヒンデミット、近年ではベリオ、ノーノ、マデルナ、ベルト、アダムズらが自作を指揮し、バルトーク、ラフマニノフ、プロコフィエフたちも自作のソリストとして演奏するなど時代をリードしてきた。録音も膨大で1,100点にも及んでいる。

公式ホームページ <http://www.concertgebouworkest.nl/en>